

# 〈連載〉救急活動事例研究

〈第11回〉

本稿は、第21回全国救急隊員シンポジウム（主催／岡山市消防局・一般財団法人救急振興財団）において発表された症例を紹介

## 山陽自動車道での夜間高速バス事故による集団救急事故報告

（岡山県）倉敷市消防局  
玉島消防署 守山博敏

### 【目的】

航空機や新幹線、さらに高速自動車道が整備され、旅行やビジネスなどの移動手段は様々な選択肢があります。近年、移動コストの安い夜間高速バスによる高速自動車道での事故が多発しているニュースをよく目にするようになってきました。そんな中、平成24年4月、倉敷市消防局管内山陽自動車道下り線上で、高速バスと大型トラックの接触事故による集団救急事案を体験しました。この事案について、様々な問題点等がありましたので、これを共有し、今後の活動に生かすため、報告します。

### 【事故概要】

パーキングエリアから本線に合流してきた大型トラック（25トン積）に、本線を走行中の2階建て大型高速バスが追突し、多数の負傷者が発生したもの（写真1、写真2、写真3、写真4）。

### 【活動概略】

1時24分の覚知段階で、指令管制室により集団救急事案としての「スイッチ」が押され、集団救急指令により、第一出動で指揮隊1隊、救助工作車1隊、高規格救急車4隊、ポンプ車1隊が出動する。

出動途上に指令管制室から、「乗客は37名乗車中、運転手にケガはない。」との情報を得る。その後「乗客3名がバス内に閉じ込められている。救助工作車2隊、高規格救



写真1 事故後のバスの破損状況（活動後撮影）

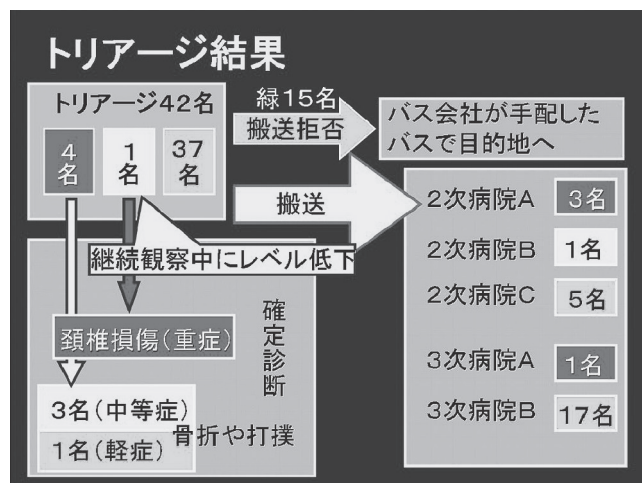


図1 トリアージ結果後の、傷病者の状況及び搬送先

急車2隊を更に出動させた。」との追加情報を得る。

最先着隊によって乗員はバス乗客39名、バス運転手2名、トラック運転手1名であり、バスの2階部分には乗客3名が挟まれた状態であることを確認する。他の乗客は車外に出ている。バスとトラックは高速道路の緊急通行帯に停車している状態である。

最初のトリアージで、バス内に挟まれた3名及び、車外の1名を赤タグ、車外に出ている乗客1名を黄色タグ、他を緑タグとする（赤タグ4名、黄色タグ1名、緑タグ37名）（図1）。

バスに残された3名は、下肢を挟まれた状態であったものの意識清明であり、先着及び後着の救助隊により大型油圧器具を使用し救出する。

また、指揮隊から、軽症患者収容用のマイクロバスを現場出向するよう指令管制室に要請する。

救助活動中も指令管制室から病院の受け入れ状況が指揮隊に逐次報告されており、病院選定は救急隊が個々に行わ



写真2 バスの全景（後日撮影）

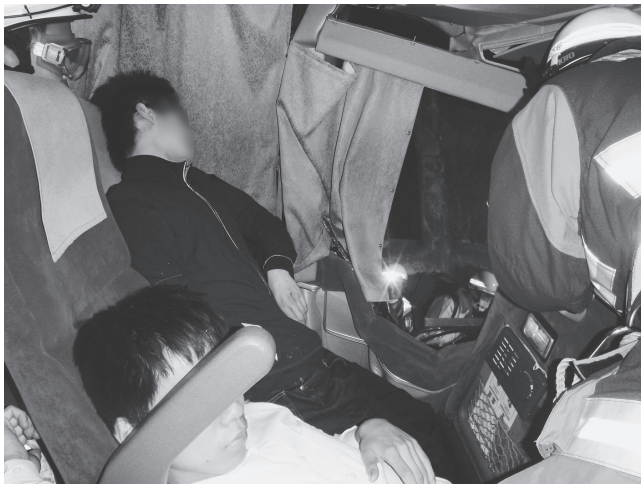


写真3 バス2階座席に挟まれた傷病者を救出中の写真

ず、指揮隊から指示を受けた後に病院連絡を行い搬送する。

結果、救急隊とマイクロバス隊は延べ7回搬送、27名を8病院へ収容する。

【出動車両】

支援車	1台
マイクロバス	2台
救助工作車	3台
ポンプ車	1台
高規格救急車	6台
指揮車	1台

合計 出動車両14台 出動人員 47人

【時間経過】 (覚知からの所要時間)

発生時期	平成24年4月上旬	1時18分ごろ	
覚知時刻		1時24分	
最先着隊現場到着		1時36分	12分
順次負傷者搬送開始		2時15分	51分
黄タグ (後赤タグ) 搬送開始		2時33分	1時間9分
マイクロバス搬送開始		3時40分	2時間16分
最終負傷者搬送開始		4時26分	3時間2分

【問題点】

今回の集団救急事案では、問題点が3点ありました。

まず1点目は、早期に高速道路の閉鎖ができなかったことです。1時53分ごろ、NEXCO職員から高速道路を閉鎖したとの報告がありましたが、それまでは追い越し車線を通行する車両に気をつけながらの活動を余儀なくされました。

2点目は、比較的早期に赤タグ4名と黄色タグ1名、緑タグ38名に対してトリアージ結果を出していたにもかかわらず、搬送開始までに時間を要したことです。継

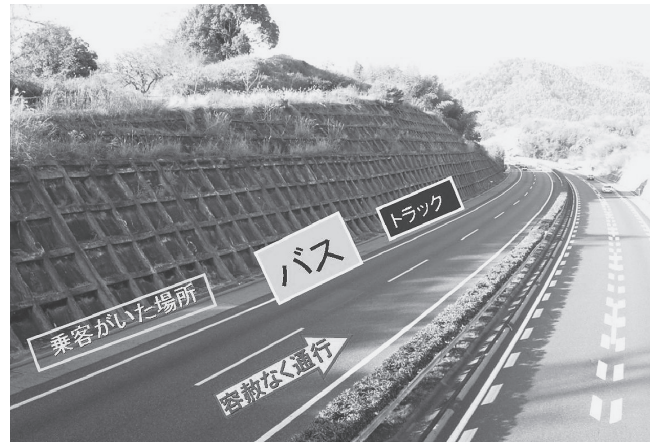


写真4 事故現場全景と、事故車両、乗客の避難位置

続観察中に黄色から赤タグに変更した傷病者にいたっては、覚知から搬送開始までに1時間9分も要してしまいました。

3点目は、消防や救急のマニュアルには載っていない、負傷者から切実な声があったことです。それについては、対応できることとできないことがありました。

【問題点の考察】

①早期からの道路封鎖ができなかった問題点

現着後、指揮隊により、下り車線の道路閉鎖をNEXCO及び警察に要請していましたが、閉鎖までには時間を要し他機関との連携の難しさを実感しました。

②搬送開始までに時間を要したことについての問題点

挟まれ救出中であった傷病者を優先的に赤タグとしており、赤タグ傷病者を救出完了後に順次搬送したため、赤タグの傷病者を救出完了するまでは搬送開始ができず時間を要しました。

車外に出ていた黄色タグの傷病者が、継続観察で赤タグに変わったにも関わらず早期に搬送できなかった理由としては、救出中の赤タグ者を3次病院や主要2次病院に既に振り分けていたことで、搬送先の混乱が生じたためです。

継続観察で黄色タグ者が意識レベル低下したことを再度3次病院へ連絡したところ、「赤タグの人を優先して受けます。」との回答があり、赤タグであることを伝えつつも、病院との間に情報の共有がうまく行かず、病院選定に時間を要しました。

この傷病者は急変することなく搬送できましたが、多数傷病者ではこのような予期せぬ混乱があるということも学びました。

③負傷者からの声 (写真5)

最先着隊到着後約70分後に到着した支援隊が活動中の写真です。この写真だけ見ればスムーズな活動に見えますが、後方支援対応が遅くなり、活動中に乗客から様々な声